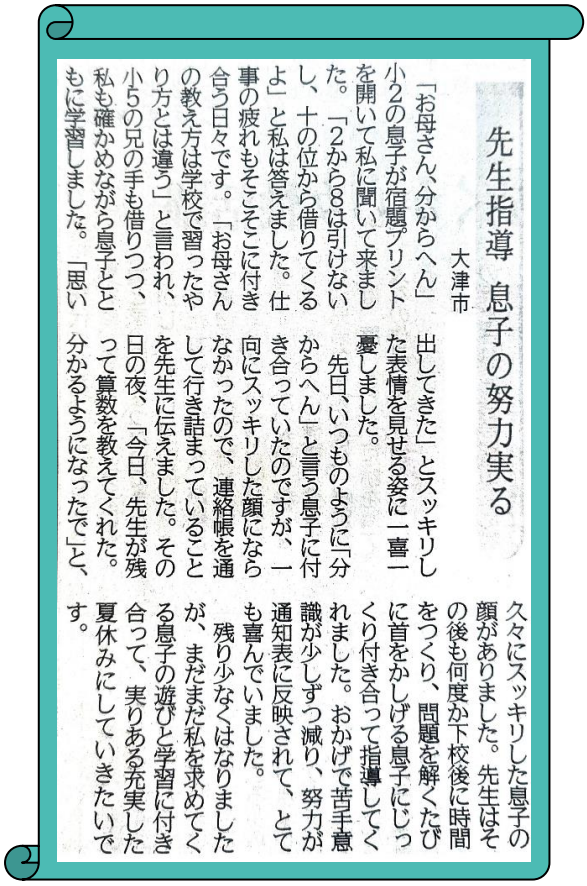
大津市 Education center 教育センター 所報 No.２２０

令和７年１０月 発行

大津市教育センター　〒520-0814
滋賀県大津市本丸町６番５０号
電話　077-522-1910

一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育

大津市教育委員会　教育長　　島崎　輝久



先生指導　息子の努力実る

大津市

「お母さん、分からへん」小2の息子が宿題プリントを開いて私に聞いて来ました。「2から8は引けないし、十の位から借りてくるよ」と私は答えました。仕事の疲れもそこそこに付き合う日々です。「お母さんの教え方は学校で習ったやり方とは違う」と言われ、小5の兄の手も借りつつ、私も確かめながら息子とともに学習しました。「思い出してきた」とスッキリした表情を見せる姿に一喜一憂しました。

先日、いつものように「分からへん」と言う息子に付き合っていたのですが、一向にスッキリした顔にならなかったので、連絡帳を通して行き詰まっていることを先生に伝えました。その日の夜、「今日、先生が残って算数を教えてくれた。分かるようになったで」と、久々にスッキリした息子の顔がありました。先生はその後も何度か下校後に時間をつくり、問題を解くたびに首をかしげる息子にじっくり付き合って指導してくれました。おかげで苦手意識が少しずつ減り、努力が通知表に反映されて、とても喜んでいました。

残り少なくはなりましたが、まだまだ私を求めてくる息子の遊びと学習に付き合って、実りある充実した夏休みにしていきたいです。

2025年8月26日　京都新聞（転載許諾済み）

夏休みが終りに近い猛暑の夕暮れ時。蝉の大合唱の中、近所の小学生が「あのカナカナはヒグラシ。ヒグラシが鳴くと秋が近いっておじいちゃんが言っていたよ」と教えてくれました。いつになることやらと思いつつ「早く涼しくなるといいなあ」と返しながら、庭の水やりをしていました。

同じ頃、ある新聞の朝刊に左の投稿を見つけました。記事を読んでいくと、お母さんの帰りを待ちわびるように「教えて」とおねだりする子ども、疲れた顔も見せずお兄ちゃんと一緒にそれに応じるお母さん、かつてはよく見られた懐かしい光景が目に浮かんできます。

以前、あるお母さんから「子どもの『ただいま』の声を聞いたら、その日、学校で楽しく過ごしたか、何か嫌なことがあったのか、ある程度、想像できる」という話を聞いて、「保護者の洞察力はすごいなあ」と感心した覚えがあります。

投稿記事のお母さんは、子どもの「スッキリした表情」で、学校での様子や心の動きを見取っておられるのでしょう。表情から子どもの行き詰まりを感じると、連絡帳を通して SOS を担任に伝えておられます。そして、お母さんの思いをしっかり受け取った担任が、その子どもに寄り添った対応を続けた結果、子どもが「スッキリした表情」を取り戻すことができた、見事な連携プレーといえるのではないでしょうか。

連絡帳は多くの学校で活用されていますが、この記事では、ただの記録や連絡事項の伝達だけでなく、**学校と保護者の「意思疎通」や「連携した対応」につながる大切な役割を果たす**ものになっています。この子どもは、保護者や家族、担任の先生から温かい眼差しで見守られ、**「スッキリ」の数だけ自己肯定感や達成感を「心の栄養」として蓄えている**と私は思います。

さて、秋分の日を過ぎて、日暮れが早くなるとともに、ようやく季節が進んできました。秋は学習、スポーツ、芸術、さらに校外学習などの様々な行事が目白押し。学校にとっては、いわゆる「動」と呼ぶ時期ですが、動きが活発な学校生活に躍動感を覚える子どももいれば、目まぐるしい変化を受け入れることが得意でない子どももいることを意識しなければなりません。

私たちは、「一人ひとりを大切に」「誰ひとり取り残さない」という思いで、日々子どもたちの前に立ち、予測不可能なこれからの社会を生き抜く「確かな学力や生きる力」を養えるようにと努めています。しかしながら、おとなの尺度で子どもを見ている、毎日子どもが見せる表面的なところしか見ていない（見えていない）、往々にして、こんなことがあるのではないでしょうか。

この所報№220 を読まれた方が、**子どもの表情や行動を見ることに加えて、これまでの努力や足跡にも関心をよせて子ども一人ひとりを受け入れる**、言い換えれば、**子どもが自己肯定感や達成感という栄養を蓄えられるような関わりをする**、そのきっかけとしていただければ嬉しく思います。

夏の研修

夏季休業期間に全35の研修講座やステージ研修を開催し、のべ1967名の積極的なご参加をいただきました。その一部をご紹介します。

初任者研修・新規採用教員研修（小・中・幼）（計６３名）　（於：葛川少年自然の家）

幼稚園・小学校・中学校の初任者が、葛川少年自然の家で野外活動実習を行いました。午前は命の学習を、午後はウォークラリーを実施しました。子どもが普段行う活動を単に体験するだけでなく、各班に教師として主導する時間を設定することで、主体的に研修に臨むことができました。教師として子どもを葛川へ連れて行ったときの動き方や注意点、子どもに葛川でどんな体験をしてほしいかを念頭に置きながら、終始教師の目線で考えながら活動しました。グループ学習では、命の学習やウォークラリーの実体験をもとに安全指導や環境学習について活発に意見を交流し、他校種との違いを再認識しながら様々な視点を学ぶことができました。

○受講者の感想

- 前に立って指示や話をする同期の仲間たちの姿勢、言葉の掛け方が学びになりました。「話したいことが2つあります」など、見通しをもてる話し方や、質問があるか必ず確認する姿など、今後の自分の保育に生かし、子どもに大切なことを伝えられるようになりたいと思いました。実際に生きているあゆを捕まえて食べる命の学習の体験がとても心動く学びになり、五感で学ぶ大切さを痛感しました。
- 命の学習の教師役として事前に伝えることを考える中で、子どもの言動を予想しながら、細やかな指示を出せるように意識しました。安全指導についても、茶化さずに真剣に命と向き合う雰囲気を作ることで命の学習が成り立つのだと分かりました。そのような話し方や指示の仕方ができるよう、今回の経験を生かしていきたいです。

- 下見をすることでどこに何があるか、どんな危険があるか、そしてどんなねらいをもたせられるかなど、深く考えられるということが実体験を通して分かりました。見つけたもの、におい、音、手触りなど、ここでしか得られない五感を通した体験や活動が、子どもの学びにつながると思いました。
- ウォークラリーのお題づくりと危険な箇所を探す課題では、幼・小・中と様々な校種の先生と交流ができたため、とても広い視点で見たり考えたりすることができました。違う校種の先生の意見を聞いたとき、自分が「答えのある問い」に縛られていたと気づきました。視野は一人で考えると狭くなりがちなので、意見の交流を大事にしていきたいと思いました。

町中に比べ「涼」を感じるはずの葛川の里なのですが、今年の夏の暑さは厳しい状況でした。そんな中、葛川少年自然の家に 63 名のフレッシュな先生方をお迎えしました。

初めて自然の家に来所する先生方も多く、やや緊張した面持ち、新しい発見に驚く顔、課題に真剣に向き合い高め合う姿、自然の中に身を置いて心が和らぎほほ笑む表情･･･そんな素敵な姿がたくさん見られる研修でした。

印象的だったのは、初任者の先生方が葛川に身を置いて、自身が五感を通して感じたことを、「日常接している子どもたちならこんなことができるかも･･･」等とイメージを膨らませながら会話を弾ませる姿でした。先生方が、体験活動の方法を知るだけに終わらず、活動のねらいや活動の奥にある意味を理解し、目の前の子どもたちの教育にいかに落とし込めるかを考えるその姿勢が重要だと感じました。

昨今、コロナ禍による影響や SNS の普及による人間関係の希薄化や AI の広がり等を受けて、本物を体験する機会が薄くなっていると感じます。

情報化も当然大切ですが、今回の研修で得た「単元計画に位置付ける活動の意味」「体験したからこそ感じる心の動き」「子どもの心で物事を感じ、考えること」等、その学びを先生方の心においていただければと思います。子どもたちの輝く笑顔を大切にお互い頑張っていきましょう。

葛川少年自然の家　所長　　鎌 田　豊

ご協力いただきました葛川少年自然の家の皆様、

ありがとうございました。

【教科別合同研修】　（於：滋賀大学教育学部附属中学校）

中学校初任者・2年次・3年次・臨時講師を対象に、附属中学校で教科別研修を行いました。それぞれの教科に附属中学校の先生に講師として入っていただきました。各自が実践事例を持ち寄り、成果と課題を挙げていき、互いに質問し合うことで授業づくりについて議論しました。授業中に技能を指導するときのちょっとしたポイントから専門的な話まで、同じ教科の教師同士という点を最大限に利用し、学びを深めていました。最後には、講師の先生方から「主体的・対話的で深い学び」の実現や各教科での授業づくりで意識すべきポイントなどについて指導助言いただきました。

○受講者の感想

- 子どもたちをどのように関わらせると「主体的・対話的で深い学び」につながっていくのかを実践事例をもとに、子どもの反応も聞きながら学ぶことができました。対話の方法は人とだけでなく、自分で調べた本を読むことなども対話になると指導助言いただいたことが強く印象に残っています。子どもたちが数学に興味をもち、自発的な学びにつながるような授業づくりをしていこうと思いました。
- 対話的な学びという部分のみに着目してしまうと、どうしてもやって満足、楽しいだけで終わってしまいます。そうならないためにも、「意図」をしっかりともった活動を設定する必要があると思いました。そのために、しっかりと学習指導要領や指導案を確認して、何のためにこの活動をするのかを明確にしていこうと思いました。

【２年次研修（小）・３年次研修（小）　第３回】　（於：生涯学習センター）

教職2年次研修（小）では算数科、教職3年次研修（小）では国語科を研究窓口教科として、受講者それぞれが課題研究テーマを設定し、実践・検証を通じて実践的指導力の向上を目指しています。

〔第3回〕は外部講師による授業づくりについての講義・演習の後、グループに分かれ「課題研究中間報告・交流会」を行いました。1学期の成果と課題の報告にとどまらず、目指す授業や子どもの姿に迫るための具体的な手立てなどについて活発な意見交流、話し合いが行われました。

○受講者の感想

- 同じような研究テーマの先生方と授業での課題を共有し、今後の取組について一緒に考えることができました。実践できるかどうかわからないけれども、「とりあえずやってみよう」という思いとともに、子どもと一緒に成長しながらがんばっていきたいです。（2年次）
- 同じ6年生を担当する同期と、対話的な学びにつながる手立てなどについて情報交換することができました。子どもが話したくなる内容や環境づくりなどが大切であることを再認識でき、実践的な工夫も知ることができました。（3年次）

【教職員の心と技を磨く研修　第１回】（全５回）　（於：生涯学習センター）

＊講師＊　一般社団法人　ライフ&ワーク　代表理事　妹尾　昌俊　氏

テーマ：**学校組織マネジメント**

「元気な学校づくりに向けた思考法と実践例～ビジョン、チームワーキング、時間創出」をテーマにご講義いただきました。学校の話だけにとどまらず、コンビニやカフェなど様々な例をご紹介いただき、教職員の視野を広げるよい機会となりました。

○受講者の感想

- 本校では「変化」をテーマに教育実践を図っています。絶えず新しいことにチャレンジし、失敗したとしてもそこから学び、修正していこうというスタンスで実践を進めています。今後も「失敗は『今後の解決されるべき問題』」というワードを大切にしていきたいです。また、自分や他の教職員に「何のために走り続けるのか」を問い、絶えず原点に戻りたいと思います。
- 「しくじりから学ぶ」という言葉がとても印象的でした。失敗しないように授業構成を考えたり、保護者対応をしたりという普段の自分を、改めて考え直す機会をいただいたと思いました。失敗をすることがよいというわけではないですが、失敗を恐れて自分の「やりたい」「やってみたい」が消えないようにしていこうと思います。まずは、疑問に感じたことをぶつけていこうと思いました。ぶつけることができるのも教員（学校現場）のよさであると考えました。

【教職員の心と技を磨く研修　第２回】（全５回）　（於：生涯学習センター）

＊講師＊　人材育成コンサルタント　脇田　由美　氏

テーマ：**保護者との信頼関係を築く応対術**

教職員として必要な心構えや応対の基本、傾聴とはどういうことかなど、実践的なご指導をいただきました。ペアワークを多く取り入れ、今後の応対にすぐに生かせる、充実した学びの時間となりました。

○受講者の感想

- 様々なシチュエーションでの自分の普段の応対について、周りの人からの意見や感想も聞くことができ、客観的に振り返る機会となりました。保護者や子どもの不安に寄り添うことが信頼関係構築の第一歩だと思います。クレームをチャンスととらえて関わっていけるよう今回の研修を生かしていきたいと思います。
- 電話対応に苦手意識を感じています。講義の中で「豊かな相槌」の話がありましたが、私は「なるほど」ばかりを多用していたと感じました。多様な相槌は日常的に使用することで身に付くと学んだので、これからは意識的にいろいろな言葉を使っていこうと思いました。
- 「クレーム応対は、謝罪がゴールではない」という言葉が最も心に残りました。保護者の方に不満を感じさせてしまうことがあったのですが、どのように応対してよいか分からず、謝ることしかできませんでした。これからは信頼の再構築を目指して、共感や自分の思いも伝え、よい関係性を築いていきたいです。

【特別支援教育研修　第３回】（全４回）　（於：生涯学習センター）

＊講師＊ びわこ学園医療福祉センター草津 リハビリテーション科 作業療法士　加納 雪絵 氏

テーマ：**子どもを理解するためのヒント 感覚統合　～作業療法士の視点から～**

アセスメントの際に感覚統合に基づく視点や発達的視点をもつことなど、子ども理解に対して多職種が連携をすることの重要性を、子どもの実態を例に分かりやすくご指導いただきました。

○受講者の感想

- 教育者からの視点ではなく、作業療法士という違った立場からのお話を聞くことができて、大変新鮮でした。教員にとって「しんどい子」「課題のある子」ととらえることが多い事例にも、それぞれ脳や筋肉に関する根本的原因があることを初めて知りました。周りと同じことを求めるのではなく、個人に合わせた目標設定をし、スモールステップで向き合っていこうと思います。
- 先生のお話から、たくさんの児童と、無理を押し付けていた１学期の自分の姿が目に浮かびました。「学力・生徒指導上の…」などのプレッシャーに負けて、細かく児童を見て必要な手立てをとる余裕を保てないでいること、新たな提案をする気持ちが薄れている自分を反省しました。「慣れない」「決めつけない」を大切にしていきたいです。

【ミドルリーダー研修】　（於：生涯学習センター）

＊講師＊ 元滋賀大学教職大学院 教授 今井 弘樹 氏

テーマ：**学校組織マネジメント・カリキュラムマネジメント**

これまでの学校教育や社会の変遷を振り返り、いま学校で必要とされるカリキュラムマネジメントについて学びました。また、事前課題として取り組んだ所属校の“SWOT分析”の結果を持ち寄り、グループ協議を通して所属校の「強み・弱み」から学校活性化に向けた実効策を検討しました。

○受講者の感想

- どのように職員とつながり、生き生きと教育活動をできるか考えながら研修に臨みました。もう一度しっかりと自校の強み・弱みを分析して生かし、どのような手を打っていくかプランニングし、学校組織としての取り組みを考えていきます。

第７６回大津市児童生徒科学作品展 並びに発明工夫作品展

９月６日（土）～７日（日）に大津市生涯学習センターにおいて、「第76回大津市児童生徒科学作品展並びに発明工夫作品」を開催しました。市内小・中学校からは科学作品175点、発明工夫作品22点が出品されました。子どもたちが一生懸命取り組んだ作品はどれも力作ぞろいで、会場に訪れた人たちは、一つ一つの作品を丁寧に見ていました。この作品展が、子どもたちの科学的な探究心の高まりにつながる機会になればと願っています。

大津市ＯＪＴの推進について

夏季休業の期間を中心に、数多くの OJT による研修を実施していただいています。

OJT による研修では、各校園の実情や課題に応じての研修とともに、近隣の校園が連携を密にとり、充実した研修「大津市OJT」を展開していただいています。

教育委員会や教科等領域別研究会等主催の研修と併せて、ALL OTSU で学び続けられるよう取組を進めていければと思います。この夏のいくつかの「大津市 OJT」を紹介いたします。

大津市OJTの推進

教師こそが最高の教育環境

- ◆専門性・幼児教育力・授業力・生徒指導力の向上
- ◆他校園とのつながり
- ◆若手教員・ミドルリーダーの育成

学校園の枠組みを超えて

ALL　OTSUで学び続けよう！

各校園の実情に応じて柔軟に。自由な発想で。

「地域の方や保護者との良好な関係を築くために必要な応対力」
堅田小学校・堅田幼稚園

「書く力を伸ばす効果的な学びの工夫」
小松小学校・和邇小学校

「対話を通して学び合い主体的な学力を育む」
打出中学校・逢坂小学校・中央小学校・平野小学校

大津のキラリ みいつけた

教育センターでは、新たな教師の学びに向け、事前に問いを立て、対話や省察を通して学びを深め合うことや、研修と実践の往還による探究的な学び、クロス研修や OJT 研修を通した互恵的な学び等、教職員の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して研修の改善と充実を図っています。

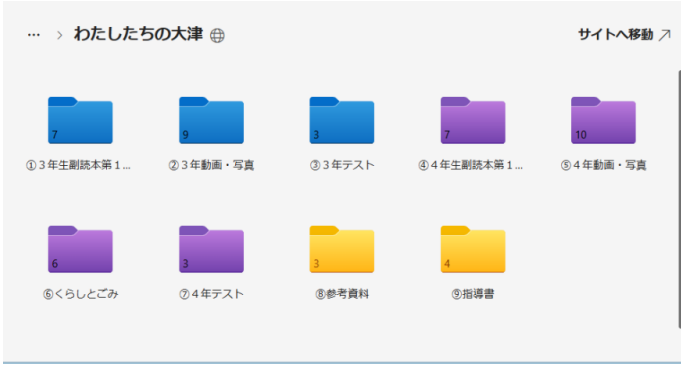
2学期最初の初任者研修（小学校）では、ミドルリーダー研修受講生による講義が行われました。事前の指導を受けて、どの研修生の講義においても、初任者が主体的に学べるようにと、ペアやグループになっての意見交流や実習等に重きが置かれていました。初任者が活発に対話したり、積極的に実習したりしている様子を温かく見守るミドルリーダーの生き生きとした表情が大変印象的でした。

今後も教育センターでは、教職員の学びが子どもたちの学びにつながり、各校において「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように、さらなる研修の改善と充実を図ってまいります。

「わたしたちの大津」WEB データが OneDrive に！

　これまで OIE-NET で公開していました小学校3・4年生向けの社会科副読本「わたしたちの大津」のWEBデータが、OneDrive の大津市教育センターのフォルダからダウンロードできるようになりました。

　これまで校務パソコンや校内利用のタブレットからのみ利用可能だったデータが、それ以外のパソコンでも、どこにいても利用が可能となり、活用の幅が広がることとなりました。



　「これまでできなかったあんなことやこんなことができるかも？」小学校3・4年生の担任以外の先生方もぜひ一度覗いてみてください。

若手教員育成学校園訪問を実施しています！

　大津市教育センターでは、幼稚園、こども園、小学校、中学校からの要請に応じて学校園訪問を実施しています。原則初任者～5年次の教員が対象ですが、6年次以降の教員及び臨時講師についても要請があればお受けしています。この事業は、より確かな保育・授業・学級づくりを目指し、市内の若手教員の教師力向上のために実施しているものです。

　9月末現在、幼稚園　11人（8園）、小学校34人（26校）、中学校18人（10校）の先生方について訪問しました。保育や授業を参観する中で指導内容や指導方法について助言及び相談を行い、若い先生方を支援しています。学校園訪問の要請は年間を通して受け付けています。また複数回の訪問要請にも応じています。ぜひ、後期もご活用ください。

おすすめの書籍

『協同学習を深める』
　主体的、協同的で生き方につながる学びの実現
杉江修治　ナカニシヤ出版

　著者の杉江修治氏は、協同学習の理論を持って全国の多くの実践者の方々と交流しながら、よりよい授業のあり方や教師の役割などについて深く探ってこられた方です。この著書には、あえて章立てがされていません。目次を見て、どこからでも読み始めることができます。子どもたちが主体となって互いに学び合う学習をいかにつくるか。ぜひ手に取って学んでみましょう。